

# 「補充・深化・統合」を明確にした総合単元的な道徳学習

—— 総合主題「命をありがとう」の授業展開（小学校2年生） ——

足利市立三重小学校 郡 司 昌 一

## 1 はじめに —— 学習観の転換、「生きる力」 ——

道徳授業の活性化を図るためにには、授業の多様な、創造的な技法・技術の改善についての研究と並行して、道徳教育全体を見渡した指導形態の再検討が必要になる。そこで、道徳教育の本質に根ざした展開のあり方を模索する。そのためには、少なくとも、学習指導要領（文部省 1989）に示されていることを、正確に理解しておくことが必要と思われる。

学習指導要領（文部省 1989）の「第1章 総則」には、「学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものとし、道徳の時間はもとより、各教科及び特別活動においても、それぞれの特質に応じて適切な指導を行わなければならない」とあり、また、「第3章 道徳」には、「道徳の時間においては、……各教科及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、児童の道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高め、道徳的実践意欲と態度の向上を図ることを通して、道徳的実践力を育成するものとする」とある。「道徳」の特設以来、三度の改訂を経て言葉の修正がなされてきたが、この根本的な趣旨は一貫して今日に及んでいる。

しかし、村田昇は「道徳授業研究史から見た総合単元的な道徳学習」（『「道徳」授業研究』明治図書 No.22 1994 pp.36 – 37）で次のように指摘している。

学校における道徳教育が学校の教育活動全体を通じて行うということが一貫していわれながら、現在もまれに学校によっては計画さえ作成されていないし、計画化されても、現実には具体化されなかつたし、各学校における全体計画にしてもきわめて原則的なものにとどまり、実践への指針とはなりえなかつた。

また、西野真由美（国立教育研究所）は『「生きる力」が要請される時代的背景』（『道徳教育』明治図書 No.452 1997 pp.5 – 9）の中で次のように述べている。

学力観の転換や能力観の多様化の背景にあるのは、学校で育成してきた学力が、社会に役に立たない学校だけに通用する知識や技能に陥りがちであったことへの批判である。学校における学力は子供が人生を生きる力になっていないのである。（中略）自己の生き方や社会のあり方を自分自身の言葉で考え、他者との相互理解を求めて対話を続ける力が、どのような社会においても人間の生きる力となる。

さらに、諸富祥彦（千葉大学助教授）は「道徳授業は何処へ向かうべきか」（『道徳教育』明治図書 No.444 1996 pp.102 – 105）で次のように提言する。

道徳授業はこれまで、もっぱら「道徳的価値」を教えることを目的としてきた。道徳授業は、従来のこのようなり方から脱皮して、「個人的な生き方の形成」の支援や「社会的問題場面における意志決定力」の育成をも射程に入れた、より幅の広い性格の時間となるべきである。

## 2 「補充、深化、統合」の具体化に迫る道徳学習の形態

これまでの研究・実践の成果を生かしつつ、今後の道徳教育の推進を見通してみた。

まず、道徳全体計画及び年間指導計画の再構成が行われた。学校レベルで重点的指導をする内容項目を決定

し、その主題を検索して道徳の年間指導計画に位置づけた。道徳と他領域との関連について各学級担任が考察し、特に道徳の時間と特別活動との関連について具体化がなされた。さらに、学級ごとの道徳教育の構想を「学級における道徳指導計画」として作成し、教育活動全体を通じて機会をとらえ、道徳と教科・領域との有機的な関連を念頭に置いた指導を進めてきた。

教科・領域における道徳指導の実践方針を加えた「道徳教育全体計画」を作成し、さらに「関連」を明確にするための年間計画のあり方を摸索した。道徳の時間を中心とする道徳教育を構想することが改めて求められている今、新しい教育観に立った道徳教育の構想に取り組んだのである。これまでの教師主導型の教育から子ども中心の教育への転換という教師の指導観の転換とともに、これまでの受け身の学習から子どもの自ら学ぶ意欲に支えられた主体的な学習への転換という子どもの学習観の転換を求め、道徳の時間の「補充・深化・統合」の具体化に迫る道徳教育をねらいとする「総合単元的な道徳学習」を構想した。(1995 足利教育会研究紀要 NO.33 「多時間構成の道徳学習」)

### 3 総合単元的な道徳学習

道徳の時間と他教科・領域との関連を図り、豊かな体験、すなわち道徳的行為をなせる体験をし、「重点的指導」によって子供がこだわり続けることで、内面に根ざした道徳性の育成が望める。

そこで、本来の道徳の時間の役割はそのままにし、その前後で子どもが主体的にかかわる道徳授業及び道徳的実践の場を計画し、それら一連のプロセスの中で、子どもが主体的に学んでいけるための支援の実際を考えていこうとするのである。

道徳の時間を核とした指導計画を個人レベルで作成することは、かなりの労力が必要である。そこで、学校レベルの重点化をねらう段階で、まずは複数の道徳の時間を単元化させることから始めていくという研究になる。内容項目、「道徳」の時数等、現行学習指導要領の枠内で、年間2回程度の総合主題を指導計画に位置づけ、総合主題のもとに道徳の時間と教科・領域との関連を明確にした「主題配列関連表」を作成した。

### 4 主題配列関連表（第2学年）

別表1、2、3を参照

### 5 総合主題「命をありがとう」（第2学年）の道徳学習にこめた教師の願い

私達は、周囲のさまざまな人々と出会い、多くの関わりをもっている。そこで、道徳、国語科、生活科、学級活動の時間等において、これまでの自分の成長を振り返り、支えてくれた周囲の人々への「感謝」の気持ちを持たせたい。そして自己を見つめ、命の尊さについて考える機会を子供たちに与えたい。

## 6 総合主題構想

	教科・領域	題材・主題名	ねらい
第1次(1月)	国語科	「おへそってなあに」	おへその役割や機能を考えながら、叙述に即して内容を正しく読み取り、自分の体に関心を持つことができる。
第2次(1月)	道徳	「へんとうせんのとき」 2-(4) 感謝	家族の人たちの温かい気持ちを感じ、感謝の念や親愛の情を持とうとする態度を育てる。
第3次(2月)	学級活動	「おなかの中の赤ちゃん」	お母さんのおなかの中で、大切に育てられたことを理解する。家族からの手紙を読み、返事を書く。
第4次(2月)	生活科	「小さいころのこと しりたいな」	誕生から現在までの自分の成長を振り返り、成長を喜ぶとともに、自分を支えてくれた家族や周囲の人に感謝の気持ちを持つことができる。

## 7 第2次の道徳授業案

(1) 主題名 かんしゃの気持ち

(2) 主題設定の理由

第1次の国語科「おへそってなあに」の学習を想起し、資料「へんとうせんのとき」の道徳学習により、実際に自分の身近にいる人への感謝や大切な命について考える。そして、第3次の学級活動「おなかの中の赤ちゃん」、第4次の生活科「小さいころのこと しりたいな」の学習につなげたい。

(3) ねらい

家族の人たちのあたたかい気持ちを感じとり、感謝の念や親愛の情を持とうとする態度を育てる。

(4) 展開 (略)

(5) 資料 「へんとうせんのとき」(小学どうとく「のびゆくこころ」日本書籍編)

(6) 授業記録

ア 「へんとうせんのとき」の話で、お母さんに汗を拭いてもらったり着替えをさせてもらったりしたとき、のぶ子はどんな気持ちになったか。

・お母さんて、やさしいな。

・夜中なのにごめんね。

イ 普段ののぶ子の様子はどうか。

・叱られることが多い。

・あまりよい子ではない。

ウ 叱られたとき、のぶ子はどう思って  
いたか。

・お母さんなんて大嫌いだ。

・もう何も聞いてあげない。

エ のぶ子が心の中で、「お母さん、あ  
りがとう」と言ったのは、どうして  
か。

・寝ないで看病してくれて、すまない  
な。

・わたしのこと、かわいがってくれているんだな。

オ 風邪をひいてつらい時に、家族がしてくれたことは？

・病院に行くとき、車の中で毛布をかけてくれたよ。

・お仕事を休んで、すぐに病院に連れていってくれた。

・おかゆを作ってくれた。

・お仕事を休んで看病してくれたよ。

・お風呂に入れないから、温かいタオルで体を拭いてくれたよ。

・おいしいジュースを持ってきてくれたよ。

・ヨーグルトを買いに行ってくれたよ。

・歌を歌って寝かせてくれたよ。

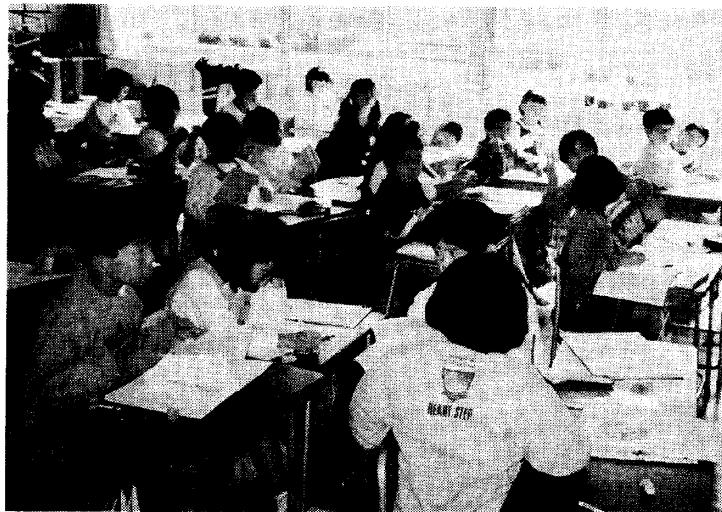
・「食べたいものを言ってみな」って、やさしかったよ。

・ご飯を持ってきてくれた。

・「寒くない？」「熱い？」って心配してくれたよ。

(最後に、Y児が明るく大きな声で)

・「いいねえ、そういう親子の愛情って。」



## 8 第3次の学級活動「おなかの中の赤ちゃん」

この授業では、新生児の体重とほぼ同じ重さのもの（砂糖3K）を子供たちの腰につけて体感した。そして、誕生にかかわることを内容とした家族からの手紙を受け取った。その家族からの手紙を読み、返事を書いた。次に紹介するのは、ある母親とその子の手紙である。

### 「みいちゃんへ」

ママのおなかの中に、みいちゃんがいると分かったとき、ママはとてもおどろきました。パパやおじいちゃん、おばあちゃんはものすごくよろこんでくれたけれど、ママは自分のおなかの中に、小さな小さな“いのち”が生まれて、少しづつだけど大きく育っていくのがとてもふしげでなんだかしんじられない気もちで

した。

ママはさいしょから“ママ”じゃなかったの。ママはふつうの女の子で、いろいろなことがあっていろいろ自分でがんばったりして、やっと少しおとなになったかなあと思っていたときだったので、きっと赤ちゃんができたことに、ほんとうにびっくりしちゃったんだね。

でも、おなかの中のみいちゃんがときどきうごいて、「おうい、もうすぐママになるんだよ。がんばってね。」って何回もはげましてくれたおかげで、やっとママになれたように思えます。きっとみいちゃんが、ママを“ママ”にしてくれたんだね。ありがとう。ママのところへ生まれてきててくれて。ほんとうにありがとうございます。とてもうれしかったです。

みいちゃんが生まれたとき、かぞくみんなでとてもよろこびました。2830gの少し小さな赤ちゃんは、とっても大きな声でなく、元気な赤ちゃんでした。かぞくだけじやなく、たくさん的人が、「おめでとう」とて言ってくれて、たくさんの人があいちゃんをだっこしてくれました。そのとき、とてもよろこんでくれたおじいちゃんたち二人は天国へ行ってしまったけれど、みいちゃんの中におじいちゃんたちは生きています。みいちゃんは、パパやママから“いのち”をもらっただけではありません。おじいちゃんたちやおばあちゃんたちからも、もらった“いのち”です。だからみいちゃんを見ていると、元気がわいてくるのかな。

これからは、みいちゃんをまもってくれたたくさんの人々に、「元気」を少しずつ分けて、みんなを元気でやさしい気持ちにさせてね。

### 「みいちゃんからママへ」

手紙、読んだよ。ありがとう。

ママも、さいしょはみいちゃんみたいな女の子だったのかな。みいちゃんもきっとママみたいなママになって、ちゃんと赤ちゃんを自分で育てられるかな。みいちゃん、ちょっと心配になってきたよ。いつまでもママといっしょにはいられないし。

いつか、大きくなったら、みいちゃんは赤ちゃんをうむんだね。ママがみいちゃんをうんだときはとっても苦しかったんだろうと思うんだけど、そのあとがうれしかったんだよね。なにしろ、ひろーいひろーい地きゅうに、小さいのちが一つ、ふえたんだものね。みいちゃんが赤ちゃんをうんだら、ママはおばあちゃんになっちゃうけれども。でも、うれしいよね。

いのちが一つ一つ、地きゅうにふえたりへったりする。いのちがへるっていうことはしんてしまうということは、だれかが死んじゃうことだね。死ぬと何もできない。でも、手紙に書いてあったけど、”天国へ行ってしまったけれど、心の中で生きているんだよ”って言っていたね。おじいちゃんはママのパパだからいつまでも生きているのかな。おばあちゃんやママが天国へいったら、みいちゃんの体の中にたくさん的人がすみつくし、ママの中におじいちゃんやおばあちゃんがいても会えないけど、天国で会えるんだよね。今はママがちゃんといいるから、わたしはいつでも会えるよね。

だから、ママがいるときは、いろんな思い出をたくさん作って、それから赤ちゃんをうみたいな。

1997.2.17 みずきより

## 9 総合単元的な道徳学習 総合主題「命をありがとう」の学習を終えて 今後の課題としては、次の3点が挙げられる。

- (1) 「関連」をさらに明確にした主題構成の工夫
- (2) 多時間主題における道徳学習過程の改善
- (3) 値値観を子ども自ら高めていける資料の開発

年間指導計画の編成に当たって、関連する価値を意図的に配列しようとする考え方は、すでに主張されているところであるが、この場合は価値項目そのものの論理的関連性をとらえて構成したものであり、総合単元的な道徳学習でいう道徳教育重点課題に関連して構成するものとは、異なるものである。ここでの単元構成の基盤は、あくまでも教師の子供に対する問題意識である。

総合単元的な取り組みの中で、道徳の時間の学習を独立した点としてではなく、線につながる点として「主題配列関連表」に位置づけ、総合主題「命をありがとう」の单元化を試み授業実践でしたが、生活科で自分の誕生や成長に関する学習体験がこの時期に実施され、心の通い合う多くの場面が用意されていたことは、本学習の展開にとって有効であった。

自己の生き方や社会のあり方を自分自身の言葉で考え、他者との相互理解を求め対話を続ける力が、どのような社会においても人間の生きる力となる。まずは、何よりも自己を見つめる機会を保障することだと思う。総合単元的な取り組みの中で、子供たちはじっくりと自己を見つめることができるということを確信した。



表1 道徳年間計画 「主題配列関連表」(第2学年1学期)

月	学校カレンダー (関連行事)	特 別 活 動	道徳の時間	各 教 科	生 活 目 標	備 考
4	1学期始業式 新任式 大掃除 入学式 対面式 登校研修会 通安診断 みどりの日	児童会活動 (1) 学級活動 (2) 学級目標を決めよう 2年生になって 日直の仕事 掃除の仕方 学校の行き帰り 1年生に学校案内をしよう	「あかるく げんきで」 1-(1) [新度・自立自制] 「えみちゃん よかっただね」 2-(3) [友情]	国語科 「ふきのとう」	名札、帽子をし よう。	
5	足利まつり 家庭訪問 遠足(1~5年)	係を決めよう 春の遠足	「がんばれ ポポ」 1-(2) [勤勉努力] 「これで いいのかな」 2-(1) [社会] 「金のおの」 1-(4) [正直・明朗誠実]	生活科 「おいしいやさしいをつく ろうよ」	一生懸命掃除を しよう。	
6	避難訓練 修学旅行(6年) ごみ0の日	本の借り方、返 し方		国語科 「たんぽぽの ちえ」 国語科 「スイミー」	元気によいさつ をしよう。	
7	スポーツテスト(5・6年) 歯の衛生週間	歯みがきの仕方 雨の日の遊びを 相談しよう	「るっぺ どうしたの」 1-(1) [新度・自立自制] 「ひろった 五百円だま」 1-(3) [勇氣]	生活科 「ぼくとわたしのかわいい いなかまたち」		
	プール開き 音楽教室(4・5・6年)	七夕の竹飾りを 作ろう	「あしたは えんそく」 1-(1) [新度・自立自制] 「おばあちゃんといっしょ」 4-(2) [家族愛]			
	除草作業	楽しい給食 いやな思い調査		「学校じまん」 4-(3) [愛校心] 「おじさんの 手がみ」 4-(1) [社会規範] 「はちの木ものかたり」 2-(2) [思いやり・親切]	身の回りきちん としよう。	
	清掃強化週間 1学期終業式 大掃除	○(学級の計画) 七夕集会	図書室の書きまり 夏休みの過ごし 方			

## 表 2 道德年間計畫「主題配列鑒連表」(第 2 學年 2 學期)

月	学校カレンダー ( 関連行事 )	特 別 活 動	道徳 の 時 間	各 教 科	生 活 目 標	備 考
9	2学期始業式 身体計測 水泳記録会 プール納め 演劇教室 敬老の日 除草作業 学校安全の日 運動会	児童会活動 (1) 学級活動 (2)	2学期の迎えて	「ないた 赤おに」 2-(3) [友情] 「めいぐるみパンビ」 1-(1) [重複・自立自制]	時間を見守ろう。	
10	体育の日 スポーツテスト 遠足(6年) 宿泊学習(4年) 野外活動(3年) 宿泊学習(5年)	おじいさん、おばあさんに運動会の手がみを書こう	係を決めよう 学芸会の役割を決めよう	「日よう日の そうじ」 1-(2) [勤勉努力]  「わたしの しごと」 4-(2) [家庭] 「だから たいすき」 4-(3) [愛校心] 「ロバをうりにいくおや子」 1-(1) [重複・自立自制]	「わかいな学校にしよう。」	
11	遠足(1・2年) 学芸会 勤労感謝の日	秋の遠足の相談をしよう	ことばづかい ④お世話になつた人	生活科「おいしいあきつけた」 (1)国語科「お手紙」  ②「ぐみの木と 小とり」 2-(2) [思いやり・親切]  ③「ぐりのみ」 2-(2) [思いやり・親切]	生活科「おいしいあきつけた」 (1)国語科「お手紙」  感謝の気持ちを持つとう。	
12	持久走大会 避難訓練 2学期終業式	⑤感謝の集い	○(学級の計画) ○(学級の計画)	「きねと ぶどう」 4-(2) [家庭] 「学校じまん」 4-(3) [愛校心] 「いなくなつたタロ」 3-(1) [自然愛]	国語科「力太郎」  「むく鳥の ゆめ」 4-(2) [家庭]	ろうかを走らな い。

表3 道徳年間計画 「主題配列関連表」(第2学年3学期)

月	学校カレンダー ( 関連行事 )	特 別 活 動	道徳の時間	各 教 科	生 活 目 標	備考
1	3学期始業式 身体計測	児童会活動 ○(学級の計画)	(1) 学級活動 (2) 新しい年を迎えて 給食週間	「こまつちやったな」 4-(1) [社会規範] 「こわれた 花びん」 1-(4) [正直・明るく誠実]	かぜをひかない ようにしよう。	
2	避難訓練 一日入学		②「へんどうせんの とき」 2-(4) [感謝] ③おなかの中の 赤ちゃん	①国語科「おへそってなあに」 組合主題「金を歩のむと⑥」 「きこえるかい」 3-(2) [生命尊重]	ものを大切にし よう。	
3		新しい1年生に 新アセットを作 ろう	やさしい上級生 6年生におれの 手紙を書こう	「あつ、見つけた」 2-(2) [思いやり・新制] 「たいへんだ」 3-(2) [生命尊重]	「このまでは いけない」 1-(3) [勇気] 「しつれいおばさん」 2-(1) [礼儀]	お世話になつた 6年生に感謝を しよう。
	卒業式	6年生を送る会 思い出文集を作 ろう	春休みの過ごし 方 もうすぐ3年生	国語科「スーサンの白い馬」 国語科「紙人形げきをしよう」 「ひょうごわき水」 1-(2) [勤勉努力]		

## 評

学校における道徳教育は、道徳の時間における指導とそれ以外の全教育活動を通じての指導が両輪となって一人一人の道徳性の育成を図るもので、つまり、全教育活動における道徳教育と、それらを補充、深化、統合する道徳の時間とが、十分に関連をもって機能するようにしなければなりません。

本研究においては、これらのことと明確に捉え、児童が学習の主体であるという教育観を基盤に据えて、各教科や特別活動等の特質を生かしながら、道徳の時間を中心に、有機的なまとまりをもたせた総合単元的な道徳学習の構想が提案されています。

まず、具体的な研究の取り組みの一つとして、道徳の時間と他の教育活動との関連を踏まえ、道徳教育全体計画、道徳年間指導計画、学級における道徳教育指導計画を見直したことが上げられます。一貫性のある道徳教育を推進するための指導計画の見直しと改善は重要なことです。特に、道徳年間指導計画の見直し、改善に当たっては、年間2回程度の「総合主題」を位置付け、「総合主題」のもとに道徳の時間と教科・領域との関連を明確にした「主題配列関連表」を作成したことが特色として上げられます。そして、その「主題配列関連表」に基づき、国語科、生活科、学級活動、道徳の時間など有機的なまとまりをもたせた「総合主題構想」が作成され、それぞれの授業が展開されています。

このように、全教育活動で行われる道徳教育と道徳の時間との関連を明確にし、児童の発達段階に即しながら、道徳的価値を計画的に、発展的に指導することは、きわめて重要なことです。

また、研究をまとめるに当たり、「命をありがとう」の「総合主題構想」に基づく道徳授業記録を掲載して発問や児童の反応を分析したり、学級活動における心温まる親子の手紙のやりとりを具体的に掲示したりして、道徳の時間と他の教育活動との関連が明確に捉えられる工夫もなされています。

本研究は、道徳教育の原点に立ち返って、学校教育の柱となる道徳教育を道徳の時間を要としながらどのように具体化するのかについての貴重な提案であります。各学校でも、ぜひ、参考にしてください。